

熊取町議会委員会会議録

議員全員協議会

令和 8 年 5 月 27 日開催

熊 取 町 議 会

目

次

〔議員全員協議会（5月27日）〕

熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直しについて	1
---------------------------------	---

議員全員協議会

月 日 令和8年5月27日（水曜）招集

場 所 熊取町役場議場

出席議員	1	番	文野慎治	2	番	多和本英一
	3	番	長田健太郎	4	番	石井一彰
	5	番	坂上昌史	6	番	大林隆昭
	7	番	坂上巳生男	8	番	江川慶子
	9	番	渡辺豊子	10	番	二見裕子
	13	番	田中圭介	14	番	河合弘樹

欠席議員 なし

説明員	町 長	藤原敏司	副町長	南和仁
	総合政策部長	田中耕二	総務部長	永橋広幸
	都市整備部長	山原栄次	都市整備部理事	西村幸洋
	企画財政経営課長	竹田陽介	企画財政経営課参事	義本正彦
	人事課長	大神輝光	下水道河川課長	北川政光
事務局	議会事務局長	山本浩義	書記	野津博美

案 件

1) 熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直しについて

議長（文野慎治君）皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、議員全員協議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

本協議会には、町長ほか関係職員の出席をいただいております。

ただいまの出席議員は12名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

（「13時30分」開会）

議長（文野慎治君）本日の案件は、熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直しについての件であります。

発言される方は、挙手の上、指名された後に起立し、マイクの赤いランプが点灯した後に発言していただきますようお願いいたします。

それでは、案件1、熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直しについての件を説明願います。北川下水道河川課長。

下水道河川課長（北川政光君）それでは、熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直しについてご説明いたします。

本日の資料は、「熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直し【概要版】」と「熊取町下水道ビジョン（経営戦略）～中間見直し版～」と書かれた冊子の2つになります。説明は概要版のほうでさせていただきます。

この熊取町下水道ビジョンですが、下水道事業の持続可能で健全な運営を図ることを目的として、計画期間を令和3年度から令和12年度までの10年間と定め、令和2年度に策定しております。令和7年度が計画期間の中間の年に当たりましたので、見直しを実施したものでございます。

下水道ビジョンの見直しに当たりましては、令和7年度に計4回、下水道事業経営委員会を開催

した中で、委員の皆様にご覧いただく内容についてご了承いただいております。

では、まず1ページをご覧ください。

熊取町下水道ビジョン（経営戦略）の中間見直しの概要図でございます。

下水道ビジョンは維持管理の計画であります。ストックマネジメント計画、収支見直しを検証した経営戦略、下水道の整備方針を検討した整備計画の3つの計画を柱にして策定しております。

同じページ、右側の2ページで、下水道ビジョン（経営戦略）の施策体系図と書かれた図をご覧ください。

先ほど説明した3つの柱となる計画について、今回、見直しを行っております。

まず、計画名のところでストックマネジメント計画でございますが、その下に見直しの対象範囲とありまして、過年度までの調査結果及び今後増加する見込みである維持管理費の見直しを踏まえた方針を設定しております。

続いて、その下の整備計画ですが、交付金減少リスクを想定した整備方針の検討を行いました。

最後に、経営戦略ですが、人口減少を見据えた使用料単価・有収水量の見直しを考慮した収支状況の検証を行いました。

ページをめくっていただいて、3ページをご覧ください。

まず、経営戦略についての見直しでございます。

当初の計画期間の目標として、今後3年に一度、使用料の見直しを実施する、一般会計からの基準外繰入れの低減に努める、計画的な財源確保により、健全で持続可能な事業運営を目指す目標を定めておりましたが、令和3年度から令和6年度までの実績を基に中間見直しを行いました。

結果、下水道ビジョンで資金残高目標値の3億円の設定額はおおむねキープできております。また、一般会計からの基準外繰入金については、令和6年度以降は繰入れをしない事業運営となっております。

下の図①をご覧ください。

棒グラフの青のグラフが、その年度の3月31日現在の現金残高になります。それに薄緑色の未収金、この未収金というのは3月31日までに入金されなかったお金を加えまして、その横の薄だいたい色の未払金、これは3月31日までに支払いできていないお金を差し引いた実現金高が実質的な資金残高になります。過去4年の実績値を見ますと、令和3年から令和5年までは実現金高が3億円を切っている年もございましたが、令和6年4月に下水道使用料の改定を行ってから、令和6年度の実現金残高が約3億7,000万円と大幅に回復しており、ビジョンの目標値であります3億円を超えた額となっております。

次に、図②をご覧ください。

当年度純利益についてですが、こちらについては毎年度発生することを目標にしております。緑色の折れ線グラフの数字が当年度純利益になります。令和3年度から令和5年度までは、当年度純利益は確保しているものの、右肩下がりの減少傾向でありましたが、令和6年度に下水道使用料の改定を行った結果、当年度純利益が約1億円と増加しております。

続いて、同じページの右側の4ページをご覧ください。

後期期間である令和8年度から令和12年度までの収支計画シミュレーションになります。

当初策定したビジョンでも収支計画シミュレーションを行っていましたが、今回の中間見直しにおいて前提条件の見直しを行い、さらにその下表にある1人当たりの有収水量を毎年0.2%の減少、交付金内示率を70%に設定してシミュレーションを行いました。

その結果、図③をご覧ください。

緑の折れ線グラフが当年度純利益になりますが、令和7年度見込みで約5,500万円の純利益を想定しておりますが、計画最終年の令和12年度見込みでは約1,200万円の当年度純損失、いわゆる赤字を計上することになります。ただし、この赤字については、一番右端の現金残高の棒グラフで約3億9,000万円の現金がございますので、収支不足分についてはここから補填する計画となります。

このページの一番上の、緑の枠内の赤字で記載しているところをご覧ください。

令和6年度に下水道使用料を改定し、直近の経営状況は改善しています。後期期間（令和8年度から令和12年度）においては、採用した収支計画シミュレーションに基づいて経営を行います。昨今の社会情勢の変化に伴う物価上昇及び人口減少を考慮すると、年がたつにつれて経営状況の悪化が想定されますと分析を行いました。

続きまして、5ページの一番上のストックマネジメント計画をご覧ください。

こちらの中間見直しの内容といたしまして、令和3年度から令和4年度にかけて管路の点検・調査を行いました。早急に修繕・改築が必要な箇所はありませんでした。令和3年度から令和4年度にかけて行った点検調査時に緊急度Ⅱ、おおむね5年以内に対策が必要と判断された箇所を、令和8年度に再調査し、修繕・改築が必要な場合には対策工事を実施する計画としています。

その下の整備計画ですが、計画期間の目標としまして、令和7年度までには東小学校と熊取南中学校を、令和12年度までに南小学校を整備し、指定避難所の整備率100%を目指すこととしていました。中間見直しの時点で、令和6年度末までに東小学校と南中学校の整備を完了しています。なお、現在整備している小垣内、大宮地区などに加え、和田、小谷、五月ヶ丘地区についても整備を行っていくとともに、南小学校の整備を引き続き進めてまいります。

次に、後期期間・次期ビジョン策定に向けてです。

まず、5ページ、一番下の経営戦略についてですが、次期ビジョンの策定に当たっては、人口減少・水需要減少などを考慮し、財政計画の見直しと経営資源を最大限活用するとともに、人件費、物価高騰、起債利率上昇に対応して、官民連携や近隣自治体との広域連携の可能性を調査、研究していきます。

続きまして、同じページ右側の6ページの一番上、ストックマネジメント計画のところですが、昨今の物価上昇等の影響により維持管理費が増加傾向にあるため、点検調査や改築工事については、費用対効果を重視して実施し、施設の維持管理に努めます。また、八潮市の道路陥没事故を受けまして、現在、国土交通省の各種検討会で今後の方針を協議中であり、国の動向を注視しながら点検調査や改築工事を進め、示された内容に応じて次期ビジョンへの反映も検討いたします。また、点検調査の新技術の導入、ドローンやAIなどを検討するとともに、デジタル管理の強化やデータの収集、分析、活用を図ります。

次に、整備計画についてです。

近年、国庫補助内示率が要望額を下回っている上に、起債（地方債）の発行利率が上昇し、借入れが困難になってきていることから、整備費に対する財源の確保が問題になっています。次期ビジョン策定に向けては、整備規模と投資計画の適正化を考慮しつつ、効率的かつ持続可能な整備を実施していきます。また、未普及地域の解消と人口減少による水需要減少とのバランスを考慮した効率的な整備を実施していきます。

最後に、一番下のまとめと書かれた箇所をご覧ください。

今回、中間見直しを行った結果、後期期間においても、おおむね下水道ビジョンに基づく事業運営が可能であることが確認できており、今後もビジョンに基づいた事業を推進していきます。ただ、後期期間において、下水道を取り巻く環境は維持管理費や整備費の増大、人口減少に伴う下水道使用料収入の減少などにより、経営状況が悪化していくことが想定されます。先ほど、後期期間最終年の令和12年度に当年度純損失（赤字）を計上すると説明させていただきましたが、後期期間の各年度においては、可能な限り維持管理費や整備費用を抑え、費用対効果を考慮し、より効率的に事業を進めていく必要があります。

また、後期期間において、4年に一度の使用料見直しの検証を行うこととしておりますが、令和11年度までは当年度純利益が確保できることや、令和12年度末時点で資金残高目標値の3億円を維持できるシミュレーション結果から、下水道使用料改定の予定はありません。しかしながら、次期ビジョン（令和13年度から令和22年度）の策定に当たっては、整備計画や使用料の見直しの議論が

必要となります。

以上、このまとめに書かれている内容が、今回、下水道ビジョンを見直しした結果の結論となります。もう一つの冊子のほうにつきましては、今回説明いたしました概要版の詳細の内容を記載しておりますので、また後ほどお目通しいただくようによろしくお願いします。また、今回、見直した内容については、この議員全員協議会での報告の後にホームページで公表を行う予定です。

以上で説明を終わります。

議長（文野慎治君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。大林議員。

6 番（大林隆昭君）しっかり見直しいただいてありがとうございます。

また、これから先のリスクについても、我々もしっかり考えていかないといけないと思うんですが、これこのまま、今、下水道普及率85.2%までいって、これから先、下水道を引いていくところが人が少なく、それこそ、ごめんなさい、本編のほうにある引くコストと収入とというのが合わなくなってくるところをどんどん進めていくふうになっていくと思うんですけど、これこのまま引いていくことが、熊取町、このまま持続可能な行財政運営を目指すというところに、引き続けるのいいのかどうかというのはどこかで誰かが判断しないといけないと思うので、国も、もう下水道を引くのしんどいところは細いパイプでもいいよとか、個別の浄化槽にしていましようとかというふうな、環境省でしたっけ、どこかが出していると思うので、そちらにどこかでシフトしないと、このまま引き続けるという判断を延々に下していくというのはよくないと思うので、次のビジョンになるのかどうか分からないですが、ちょっとしっかりと考えていただきたいというふうに思います。

議長（文野慎治君）答弁はいいですか。

6 番（大林隆昭君）はい。

議長（文野慎治君）ほかに質疑はありませんか。渡辺議員。

9 番（渡辺豊子君）ちょっと教えていただきたいんですが、まず、ストックマネジメント計画の中で、「令和8年度に令和3～4年度の点検調査時に緊急度Ⅱと判定された箇所を再調査し、修繕改築が必要な場合には工事を実施する予定です」というふうにあるんですけども、緊急度Ⅱということは、今、本編の中にもありましたが、5年以内に修繕しなければならないというレベルということみたいですが、そういった箇所は何か所あったんですか。

議長（文野慎治君）北川下水道河川課長。

下水道河川課長（北川政光君）今年度、予算として上げておるのが経年管路の延長ということで、575メートルありまして、この分を調査するという予定にしております。

以上です。

議長（文野慎治君）渡辺議員。

9 番（渡辺豊子君）分かりました。箇所ではなくて、575メートルを、その中で調査するということですね。その中で何か所かあればということですね、修繕する箇所というの。

議長（文野慎治君）北川下水道河川課長。

下水道河川課長（北川政光君）場所は幾つか分かれていまして、トータルして575メートルという形になります。

議長（文野慎治君）渡辺議員。

9 番（渡辺豊子君）分かりました。その辺、また改築が必要なところは実施するということで、あればまた説明をしていただけたらと思います。

あと、整備計画の中で、今回、8年度から、うち緑ヶ丘も整備していただき、整備人口の中に入って下水道の整備ができたわけなんですけれども、その中で今後も小谷、五月ヶ丘も入っていくということで、下水道使用料が増えてくるのかなというふうに思いますので、その中で、今、下水道料金の見直しについても令和12年度まではないということをおっしゃっていたかと思うんですが、

ちょっと整備人口を増やして、収入増というところをしっかりと取り組んでいただきたいなというふうに思っております。

その下のところで、経営戦略のところで、「人件費・物価高騰、起債利率上昇に対応して、官民連携や近隣自治体との広域連携の可能性を調査・研究していきます」とありますが、ちょっとこの辺のところの近隣自治体との広域連携についてはどうということなのか、教えてください。

議長（文野慎治君）北川下水道河川課長。

下水道河川課長（北川政光君）今、ちょっと下水道事業の業務の中で、例えば事業所への水質検査とか、あと立会いを行う業務というのを、泉州地域の自治体が契約一本にして同じ業者に発注しているというのがございます。それ、実は貝塚市のほうがちょっと今、旗振り役になって、地域インフラの地域インフラ群再生戦略マネジメント、群マネといいまして、泉州地域の市町が連携して、あるいは協働して何か業務ができないかということで、今、月1回なんですけれども、担当の職員が集まっている話しているところです。

また今後、熊取町にメリットがあるものについては、積極的にそういった協働とか広域化ということで参加していきたいと考えております。

以上です。

議長（文野慎治君）いいですか。ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。以上で質疑を終わります。

これをもって、案件1、熊取町下水道ビジョン（経営戦略）中間見直しについての件を終了いたします。

議長（文野慎治君）ほかに何かあれば承ります。ございませんか。

（「なし」の声あり）

ないようですので、以上で議員全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

（「13時49分」閉会）

以上の協議会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議長

文野慎治